

にほんやっかだいがく

日本薬科大学

1 講義名・定員など

(1) 開放講義

科目名	担当教員	曜日	時限	定員	授業時間
*生活習慣病学 (薬学科4年)	教授 樋口敏幸	月	2	50名 程度	1限 9:15~10:45 2限 11:00~12:30 昼休 12:30~13:30 3限 13:30~15:00 4限 15:15~16:45
人体を構成する器官 (薬学科1年)	教授 櫻田 誓	火	2		
病原微生物学 (薬学科2年)	教授 渡邊峰雄 助教 篠田典子 助教 前田貴広	火	2		
薬と化学I (薬学科3年)	教授 原口一広	火	1		
薬草文化論 (医療ビジネス薬科学科3年)	講師 糸数七重	火	1		
公衆衛生学 (医療ビジネス薬科学科3年)	教授 村橋 毅	水	1		
病態・治療I (薬学科3年)	教授 井上俊夫	木	1		
悪性新生物と薬 (薬学科4年)	准教授 井出直仁	木	2		
健康科学概論 (医療ビジネス薬科学科1年)	准教授 篠崎文夏	木	2		
運動生理学 (医療ビジネス薬科学科2年)	教授 縣 右門	木	2		
基礎化粧品論 (医療ビジネス薬科学科2年)	教授 井上俊夫 教授 白土真紀	木	4		
*漢方処方薬剤学 (薬学科6年)	教授 高野文英	木	1・2		
人体の構造と働きI (医療ビジネス薬科学科1年)	教授 井上裕子	金	2		
呼吸・消化器系疾患と薬 (薬学科4年)	教授 茅野大介	金	2		

○ 授業の都合上、上記曜日・時限が変更となる可能性がございます。

○ *印の講義は10回、それ以外の講義は15回を予定しています。

○ お申込の際は、「5 各講義の概要及び担当教員」をご参考にしてください。

(2) 講義受講にあたっての注意事項

- 担当教員は都合により変更になる場合があります。
- 曜日・時間・講義室が変則的になる場合があります。その際は追ってご連絡します。
- 講義で使用する教科書は追ってお知らせしますので、書店やインターネット等を通じて各自でご購入ください。
- 本学はお茶の水にもキャンパスがあります。2つのキャンパスで同時に授業を行うため、講義によってはオンライン講義（オンデマンド配信）になる可能性があります。その際はご自宅での受講または本学での教室での受講となりますので、インターネットに接続できる端末・インターネット通信環境が必要となります。

2 受講料・受講の申込み

(1) 受講料 1科目（半期）につき12,000円

※教科書等の教材は自己負担によりご用意いただきます。

(2) 申込期限 令和8年3月19日（木）必着

(3) 申込方法

以下の事項をもれなくご記入の上、下記お問合せ先に郵便はがき、FAX、またはメールでお申込みください。

- 住所
- 氏名(フリガナ)
- 性別
- 年齢（令和8年4月1日現在）
- 電話番号
- メールアドレス
- 受講希望講義・担当教員名（重複のない限り何科目でも可）

なお、スマートフォンあるいはパソコンを利用した Forms(受講申込フォーム)によるお申込みも可能です。下記 QR コードを読み込むか URL を入力してお申込ください。

【大学開放授業講座 令和8年度前期日本薬科大学受講申込フォーム】



<https://forms.office.com/r/jgx1MDcVqj>

3 講義場所・お問い合わせ先

〒362-0806 埼玉県北足立郡伊奈町小室10281

日本薬科大学さいたまキャンパス 地域連携室・開放講座係担当 鈴木明仁

電話：048-721-6249 (直通)

FAX：048-721-7305

E-mail：a-suzuki@nichiyaku.ac.jp

▶埼玉新都市交通（ニューシャトル）
志久駅から徒歩5分

▶JR上尾駅・蓮田駅 からバスで約15分
日本薬科大学前バス下車

◎自転車・自動車通学も可能です。
通学についてお気軽にご相談ください。



4 受講確定について

- 前期の講義は4月より開始予定です。
- 申込者多数の場合は抽選になる可能性があります。
- 受講者が決定しましたら、講義案内・日程等の詳細を、3月23日（月）前後に文書にてお知らせ致します。
- 申込後、都合により受講できなくなった場合は、早めにご連絡ください。一度納入された受講料は返金できませんので、予めご了承ください。

※ 講義に先立ち、「開放講座履修ガイダンス」を下記の日程にて行います。
大学を利用する際についてのご説明・校内のご案内を致します。是非ご参加ください。

ガイダンス日：令和8年4月1日（水）10:00～11:00（1時間程度）

5 各講義の概要及び担当教員

<p>*生活習慣病学 【生活・健康】 (教授 樋口敏幸)</p>	<p>日本は超高齢社会を迎え、疾病予防、健康維持、健康寿命の延伸への関心が高まっています。今後の医療には「健康づくり」を重視した総合的な保健対策が求められ、薬剤師には服薬指導に加え、疾病予防や健康維持への積極的な関与が期待されています。本講義では、生活習慣病（糖尿病、高血圧症、脂質異常症、肥満、虚血性心疾患、脳血管疾患、癌など）の病態やリスク要因を理解し、予防・治療・栄養管理を通じた地域保健活動の知識を深めます。</p>
<p>人体を構成する器官 【健康・運動生理系】 (教授 櫻田 誓)</p>	<p>「人体を構成する器官」では、人体の成り立ちを個体、器官、細胞の各レベルで理解できるようになるために、人体の構造、機能および調節に関する基本的事項を学びます。講義の際には、教科書を参照しながら配布するプリントに沿って講義を行います。</p>
<p>病原微生物学 【生物系薬学】 (教授 渡邊峰雄) (助教 篠田典子) (助教 前田貴広)</p>	<p>病原微生物は人に寄生し、その体を利用して増殖する生物であり、私たち人類にとっての「天敵」ともいえます。これに対抗するには、彼らの生存戦略を正しく理解することが必要です。この講義では、病原微生物がどのように人に取り付き、どのように人を傷害するのかを学びます。この知識は、医療現場や日常環境における感染症対策の計画と実施に役立ちます。</p>
<p>薬と化学Ⅰ 【化学系薬学】 (教授 原口一広)</p>	<p>生体分子の機能を化学的に理解する事によって、薬の作用や疾病発症のメカニズムを本質的に説明出来る能力を醸成する。生体分子は有機化合物であり、代謝反応は基本的な化学反応の組み合わせである。この生体分子の代謝反応を有機化学の視点から理解し、医薬品の薬理作用を分子レベルで考えるための知識を習得する。</p>
<p>薬草文化論 【漢方薬・生薬系】 (講師 糸数七重)</p>	<p>「薬草」や「ハーブ」の定義、法的な位置づけに関して学ぶとともに、様々な文化圏における有用植物としての「薬草」「ハーブ」の活用方法・活用の歴史、および現代の医療・実生活における安全かつ有用な利用方法に関して学びます。さらに、ハーブの重要な利用法のひとつである精油の利用についても専門の研究者を招聘し、講義いただくとともに、アロマセラピー検定1・2級合格を目指せる知識・技能を学びます。</p>
<p>公衆衛生学 【生活・環境】 (教授 村橋 毅)</p>	<p>公衆衛生学は、個人や集団の健康増進と疾病予防を目的とし、社会に貢献する学問です。本講義では、公衆衛生の基本理念、疫学、保健統計、健康管理、環境保健、母子保健、高齢者医療、労働衛生、学校保健、保健医療制度などの分野について、基礎知識を習得できるよう解説します。さらに、環境汚染、生活習慣病、少子高齢化、精神疾患、貧困と健康など、現代社会で直面する課題を取り上げ、それらを取り巻く社会情勢を考察します。この学びを通じて、人々の健康づくりに貢献する視点を養います。</p>
<p>病態・治療Ⅰ 【人体・生体】 (教授 井上俊夫)</p>	<p>医師が下した診断に関し、その症状について理解することは最適な薬物治療を行う上で極めて重要です。また近年、新しい作用機序をもつ有用な医薬品が数多く登場し、診断法の進歩や治療法の多様化・複雑化と相まって薬物療法に関する高度な知識が一層要求されるようになってきました。この科目では、機能形態学、病態生理学、薬理学を基礎に、中枢神経系疾患に使用される代表的な医薬品に関する知識を修得し、医薬品の適正使用の実践を目指します。</p>

<p>悪性新生物と薬 【病気とリスク】 (准教授 井出直仁)</p>	<p>がん化学療法は、これまで殺細胞性化学療法薬やホルモン療法薬が中心でしたが、分子標的薬や免疫チェックポイント阻害薬の登場により、大きく変化しました。さらに、CAR-T療法やTCR-T療法などの免疫療法も登場し、がん治療の分野は急速に進展しています。そのため、ガイドラインは頻繁に更新されています。一方で、治療の選択肢が増えたことにより、実践的で専門的な知識がさらに求められるようになりました。この講義では、抗悪性腫瘍薬の薬理や、各種悪性腫瘍の病態、薬物治療に関する基本的な知識を学ぶことを目指します。</p>
<p>健康科学概論 【生活・健康】 (准教授 篠崎文夏)</p>	<p>ライフスタイルと健康との密接なかかわりを理解します。その中で健康増進・健康づくりに対する運動の重要性と健康な生活を送るために安全で効果的な運動の実践およびその指導に関する基礎的な理論を学びます。</p>
<p>運動生理学 【健康・運動生理系】 (教授 縣 右門)</p>	<p>運動生理学では、運動が身体にどのような影響を及ぼし、どのような変化が生じるのか、その現象と仕組みについての科学的知識を学びます。例えば、筋肉や心肺機能の変化、エネルギー代謝の調節、神経系の適応など、運動による多様な身体の反応を理解します。また、暑さや寒さ、高地環境など、さまざまな外的条件に対する身体の適応や順化についても、生理学的な観点から深く学び、実践的な知識を得られることを目指します。</p>
<p>基礎化粧品概論 【生活・健康】 (教授 井上俊夫) (教授 白土真紀)</p>	<p>基礎化粧品論を学ぶ意義は、皮膚科学の基礎知識、製品成分とその効果の理解、化粧品の安全性や規制に関する知識を得ることにあります。これらの知識は、自身の肌にあった適切なスキンケア製品を選び、使用するために重要であると同時に、化粧品や美容業界の動向や消費者ニーズを深く理解することにもつながります。これにより、この分野でのキャリアを目指す人々にとって不可欠な業界知識を習得することができます。</p>
<p>* 漢方処方薬剤学 【漢方・健康】 (教授 高野文英)</p>	<p>薬局や病院などで用いられるエキス剤、煎剤、丸剤、散剤、軟剤、および生薬配合のサプリメント等を臨床実践するための具体的な取り扱い技術、および知識について論じ、臨床において実践する為の適応症例等も学習します。</p>
<p>人体の構造と働き I 【健康・運動生理系】 (教授 井上裕子)</p>	<p>人体の構造と働きでは、正常な人体の構造と形態（解剖）をその構成単位である細胞レベルから組織・器官レベルまでを理解し、更にその動き（生理）との密接な関連を体系的に学びます。人体の各器官がどのように連携して機能しているのかを学ぶ事で、病気の理解や薬物治療の基礎を築く事が出来ます。また、後半には薬の働く仕組みや、知っておきたい副作用等について触れ、特に登録販売者の資格を取るために必要な知識を得る事が出来ます。</p>
<p>呼吸・消化器系疾患と薬 【病態・治療薬】 (教授 茅野大介)</p>	<p>呼吸器系および消化器系の疾患における病態とその治療薬について解説する。また、必要に応じて、これからの疾患に関連する生物学や機能形態学（組織学、生理学）の内容についても解説を加え理解を促進する。</p>